

## 第7期 小金井市地域自立支援協議会 部会活動報告

協議テーマ	部会における今年度の課題整理と来年度の予定・ 障害者週間シンポジウムについて
開催回・開催日	令和4年2月9日（水）
記録担当委員名	生涯発達支援部会 小幡美穂
<p><b>【協議概要】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今年度の課題の整理と来年度の予定について</li> <li>2. 障害者週間シンポジウムについて</li> </ol> <p><b>【課題となった事項の整理】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今年度の課題の整理と来年度の予定について それぞれのライフステージにおけるニーズをどう把握するか？</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>就学前</u> 障害かどうかわからない「気になる子」の相談先に迷う。 児童発達支援センターきらりと、保育園・幼稚園との連携をさらに進めるには。 研修よりもケース会議が求められるという声もある。</li> <li>・<u>小学校・中学校</u> 公立の小中学校は、東京都の特別支援教育における巡回制度など整備されてきている。 私立のニーズはあるのか。 学校で過ごす以外の時間（放課後や休日）の過ごし方での課題はあるのか。 学童、放課後デイサービス、余暇活動などのニーズはあるのか。</li> <li>・<u>高校生以上</u> 障害の程度ではなく、困難さによって困り具合が違う。 「社会的重度」という視点が必要ではないか。 グレーゾーンの子どもの、学校を卒業した後の相談先を選ぶのが困難である。 (本人の特性、困難程度、環境などケースによって、相談先と提供されるサービスのマッチング が違うため) <u>☆子ども年齢（0～18歳）に関わる担当各課と横の連携を取る必要がある。</u></li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 障害者週間シンポジウムについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・新年度の障害者週間実行委員会で検討してから、自立支援協議会枠が決められる。 そのために、6月にならないと企画に着手できず、講師依頼が遅れる。</li> <li>・一個人の企画ではなく、協議会委員全体で企画を考えていく必要がある。</li> </ul> </li> </ol> <p><b>【課題解決に向けて】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 来年度の部会予定（年6回） 6月…現障害者計画の理念、到達する地点の確認。 差別解消条例、合理的配慮の観点から整理する。</li> </ol>	

8月～10月… 担当各課の聞き取り

1～2月…就学前・義務教育期間  
青年期

当事者・支援者・親などから聞き取り

☆それぞれの委員が見えていることを共有し、共通理解を深める。

## 2. 障害者週間シンポジウムについて

- ・午前中は自立支援協議会、午後は実行委員会担当というように、自立支援課で決める。
- ・今年度のうちに、企画のテーマについて検討する。
- ・各部会で、企画について案を募る。

### ☆生涯発達支援部会で出た案

- ・「共に生きる」街。色々な人を認めていく市であることをテーマに、一人ひとりの違いを共有できるような会。
- ・「障害者週間」というと参加のハードルが上がる。「この人の話を聞いてみたい」という講演。
- ・基調講演とパネルディスカッション（当事者、支援者などそれぞれの立場でテーマについて話してもらう）。
- ・短い映画を観て、それをもとにディスカッションする。など

### **【次回の開催日程】**

令和4年3月9日（水）全体会 801 会議室